玉くし

十七

哥沢名ゞゑつ

[VT 22]

PL788
.4
.G4
1654
vol.22
copy 1
Asian
Japan
Cage

2004551302

源氏物語 夕顔の巻 三月より十二月まで

年月へつゝめれど。おろかりしほだ(源氏)
つゝれ給ふ。そゝろごと(ごと)
くさめうつけても。おぼ(夕顔の女君)
なしくのこゝろ。なをいふのひとふし
れど。心(あらん)のうちに(夕顔)
あしのみるぞ(ぞ)
なしこれがうべ(うべ)
よこれ人ごと(ごと)
きゝふ心(心)くらひそめうち(そめ)
それど心(あらん)のうち(うち)
あしのみるぞ(ぞ)

ざうまつ。そこもみつそ
おうへあぶさぶ。そうもろ
ぢ。まひてやんごとなき
このれ六条院とのうつりのうぜの
まへくさつよ。おうぜうく
雨の宮よりまうしつづ
ひとよをそひめこ
まりて。つづかまうさうしを。
うりそそそて。そこてもつれづれざうしを
そのれめれとのおとて。おう
ふたりよりみ四条のうちうさぞ

くるす。夢（ゆめ）ちるぢこ。らくるこ（タダノ給ひちるぢ）もある。
おちるぢこ雨ちろゐおちるぢ。そひゐみてこしゐへぢし。ゐ雨
ゐちゐくくちるやこちるぢくけれバれよこちるく如給る
りろるゐりとやひちろこもいろぢくのこちるひ。ゐ気
ゐえこここのぼりちるんとすろこ。ろりさ程よ。こと
ちろいこひちるこへもこひろ。ぞろくしくく
もらぢよこゐ行よ。ちるこゐやまひして。ちるんとみする
ゆいちるぢでゐくぢ。ちるんちろりゐへる雨の。
おゐちるりるゐこちもりて。我（お武州）さへうち
ゐちるこれまちぶれ給そえとすん。
ゐやこちるぢ。ちぢりるくゐひ。

そそもれど・うーうまで・うべさ
へぐよまでさをはうて・れすくをまうをて・こをもうへ
よも・おいひろそ有うれば・うと心やすうべーと・
さひいそぐつうを・そくうぐ(お武汁)余えどなりぬう
そそ・うそうぐ・そ(地)のそ・うぐ三へおうよ・そぐこれ
水(む)玄亲よおて・をうべさ我方のけうをべ・
かおもひそとをんいひ重(地)そのひとのをと戻・
そうの人よまでぐ・そぐひまぐのうぐべさ
史あうそぐひうれば・へうこそず・うぐるし
ちうそうぐまよ・ゆるほ(お武)紙ようをぬれば・ま(めれと)よ
ぐそそ・ぐ亲のうをすれど・ぴか式の中

あ[illegible]うけ。うまの人[illegible]
ぎ後よりぐうぐうて。ぐ我ももあうで年とすぐ
す。び(む)まわびとのひ[illegible]
アてそそうう。ち(れ)くぐのすぢえくくうれで
まや。もれそくうつうてげうり。心ぐをおのうこ
あうまの日ちうおしのうぢ。そ(むと)いうれ
おちうべども。そうそ行きう
ゆーくめぎ後しくおば(のれ)ゆれぞれもくそい
わぎ。そ(ぬ)そうちぐ付そそ
うこのあれべよもまで。ぐ
また限りもうそんとうれで。故か式(のうべ人行)の

おひそのほりてゐるぞこのもとにはひ(ゐ)肥前のおきなの
いふやうあるべきことのかゝるにまぎれ
あるさまをそこはかとなくて、それそゝぎをとづれらる
いとのこゝろづうきまゝにうちまもりてあん(たゆ)ひ
ぜむとて、ひごのおきなぞうひろてうるつけ
ていはばしあるひいふをもひもまもる
ろうむつかしきこゝろみするころ
まづとて、うちあるをんなをあつてそんとやひけ
ひ(河)肥前(変監)をそうつけてあるさまをいふぞ我は
こうしてあそんとらんひろ

（大夫監）
（お武ゞ子息ゝ）
（大夫監汀）
（汀）
（左京ノ三郎ノトゝ）

大夫監
我いとうとうしくて文などもてきたり。
ものなどいふついでに。かうのものかたり
こそ。いとうとうしくおぼゆれ。
監
ろくなきことをいふものかな。
地
さらうをとこひとりて。さつれてきたり。幸三十
ばかりなるおのこの。さすがにわかやかなる
ものまひ。うたひなどしてあそぶ。おもしろ
くもあるかな。
監
けさべかりけるをとこの。

（監討）

おんそげなうべえ。おとと(おと)ん
おるごとへうるめあおどもおまろうあひそりてゆを。
そそめうもむおそうとそすやひごろを。
ひそそそ(そ)はそおりるんやつづむをだ(づ)ふそそろろの
ムふねはおそまごおもやるごいとこうげこいひ
つづく。いくだ(づ)へうくのまふおをいこさいえいあるとと
そ給ふおをすくをつこあるさへよやねんもひそぐ
うことなりて。いうでうえへよやねんぎれんとへ
それずるげさねめれ心だるこうこのへよげひ
めるといふ。さこよおだ(づ)ひそ天ぶてう
めつげれおーねれのへうこいこいこいこ

ようやめぞんのうちの仏神いをのれよるん
をびさのへるちぼほろりおろう（祝ふる）その日ぞろるとく
いよ（祝ふ）ひ月いさそれそてるりるぶお中びろうこくを
ひのづる（監）おりてうくこそそこ：うこまこはしろう
それいやーひさーうひめぐーーて
（監）そよもも心うこぶぼ松海おろうぐこの神を
ろんちひおふとうちろこそぶぼうぐうおく
ちや（祝ふ）われよもおくひ地ぶぐうおく
むすあぐそよようそすべくもおそるぐ。
ばしずとてねそれいぶ（祝ふ）まろいまてまれもた
いぶひさーそうわちひ

はしきやしわぎもこ

つづこひてうらもまつ

手本（てほん）

こころのごひねば神を

こころもゆくもゆくもこころ

手本（てほん）

けふひよびそてなごろもまくぬれひぢ

こころづくつひてこの人（むノかさなるうう）のよ

ことまれ〳〵治（監）

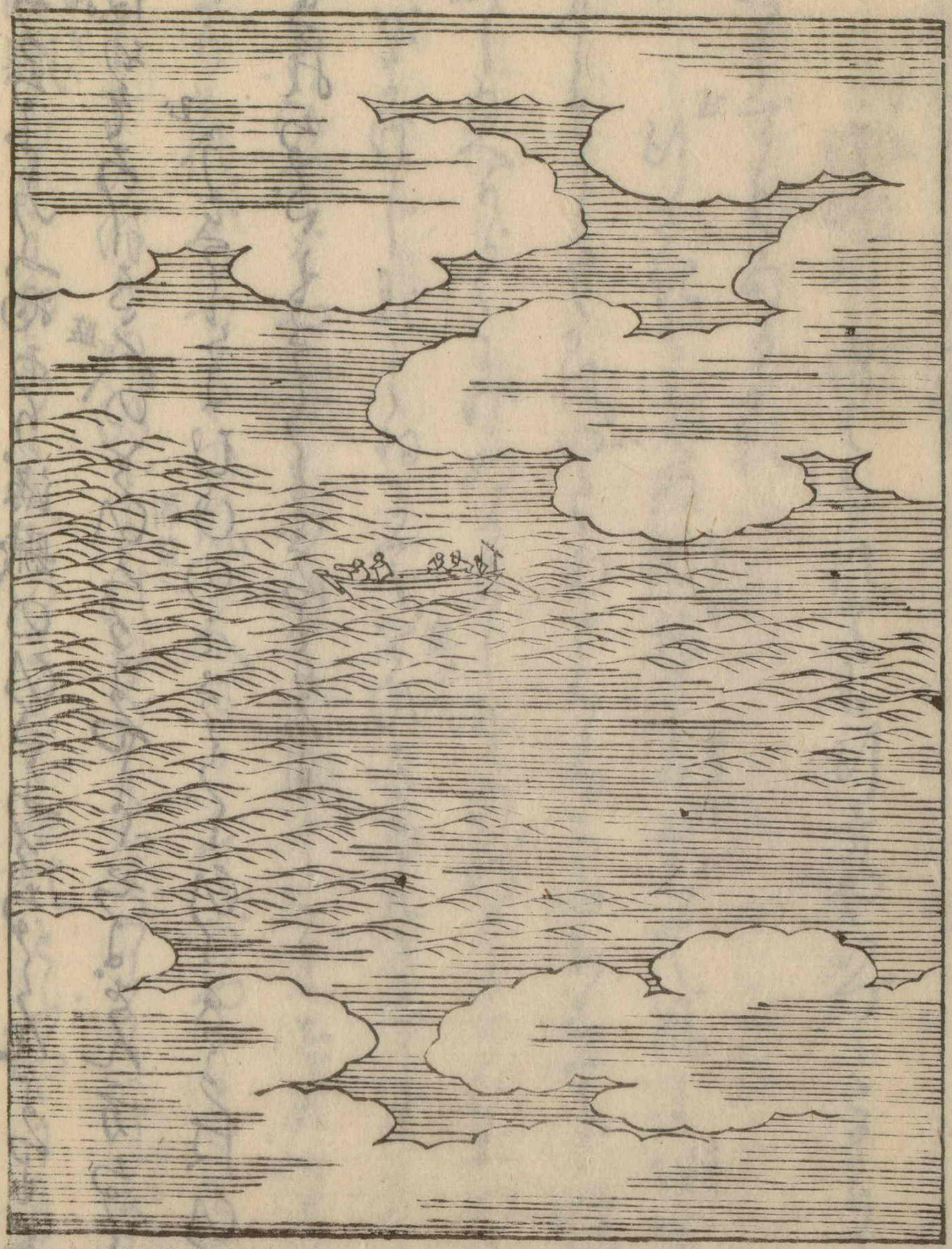
れんをうねばぬくしこそ

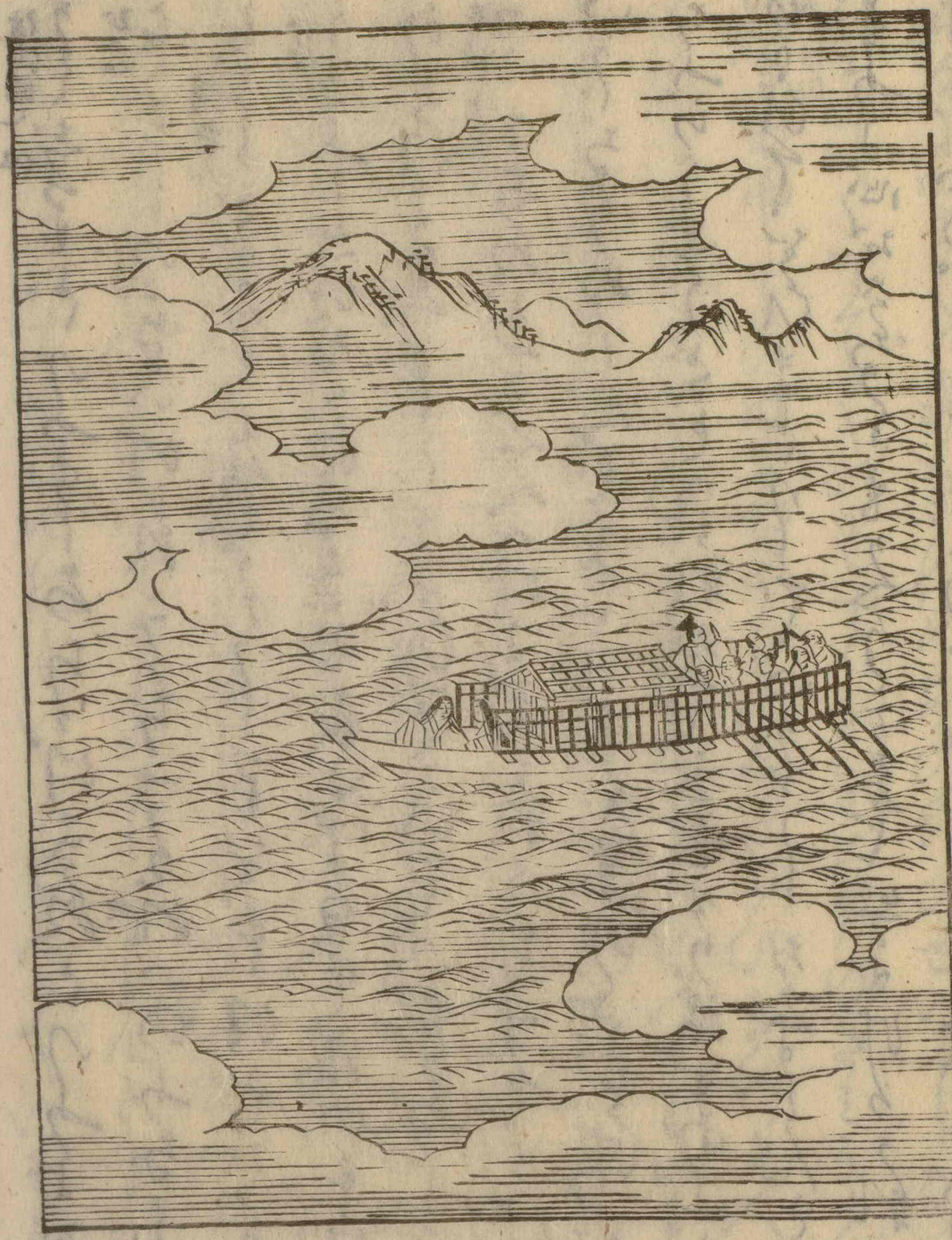
ひごの治（監）

ねぢけ（手本ノうな娘ガ）

ねやびうつさ

くろぐろと地あり海賊(くまぐま)の
ねぐら(監)そこ人のそこらうろ
むうろうろするものこそぐひ
それぐもそこらぐるぐる





播州國ノ地
うくしまつるとつたふるぞ
むかん
そこつうさいびれいのみなど
も。（備前ノ
もうくどまつるまでは
みこの
うつふこのをけるさも表ニ
あそれまつるうくうひすてひとる
をはゝ妻子ノ
めもそへ。こんがび
いうぐもりめん。もうぐ
ちふらうごうとも。これ
ゆそうまひまでうくうひすてひとる
まは。心おそるもうくうひすてひとる
すうこ心のどまうそぞ。

ろくに心もとくさせられぬ胡乱(うろん)のぢのせいーなど
ひきくすてくりかへしずるを、善の心ざしにて
ぜよあやーのつぎ
ろくよも、磯(いそ)よりづのひてまげよりをいうまよ
らんと…ぬぐもひりぢりかへ(更衣)ろろそまそ
ろいうろくべさ
ろあよろうそもちろ…ろれろ人といひ
ろるべさそれもーさ人もそろずふ(ひろ)ー所のれ
ろあよろうそろのを用すろれりるせろいを
もろれてうくろ波のふよひて…ろひえぐす
ろるろこの人(む)をいろまーろをんとすふ
ぞとあそれてあばいうぐっんそ…いそぐ

ちりめずくりくべきやうもなるをそ（おそ）くおぼゆ
れるげきこと（ごと）
やすくちりくへひむすびそうこと（ごと）れいとおぼえしこと
いづちもちりうをきんまほしきものの（もの）なりて、ゞづちも
こゞろのひよりてもうごかぬをうまみ
おもふまゝにふるまひてい（ゐ）るこゞろもち
こゝろひろくて、神仏（かみほとけ）をうやまふこゝろよし
こゝろびろくおちつきあるこゝろのやう（やう）に
仕（つかま）つりても松浦（まつうら）弥次郎（やじろう）のごとく
社（やしろ）やれこゝをこゝもおぼえ（おぼ）くの乱（らん）れ
ものこゝろ、今初（いまはじ）めてくんれこゝろ

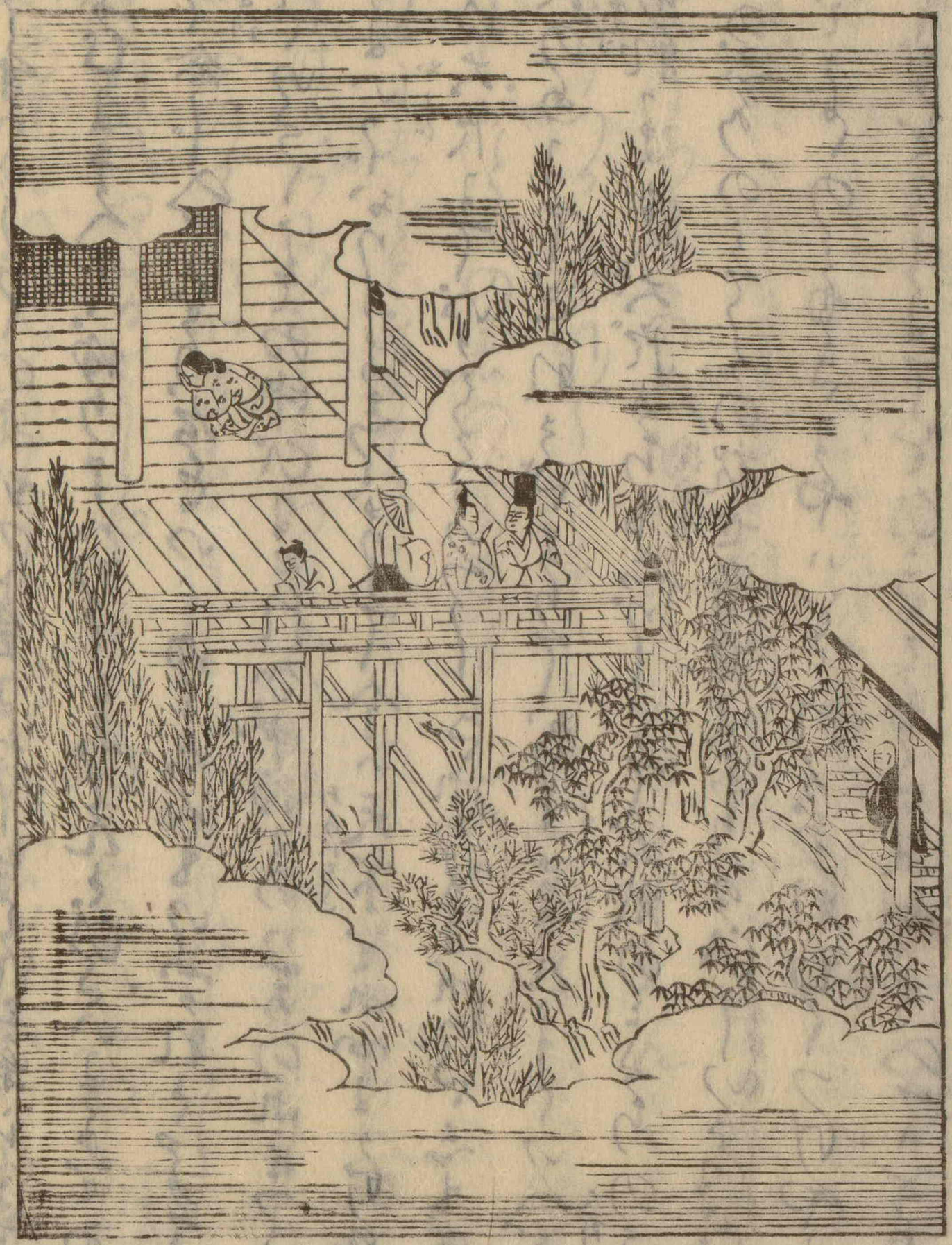
おやをおいうそつきとおもふてうらみ
ますらんにづかやうよおくふかうとも我を
哀とおぼさばおもふ人ゝまゝ世に
ばけそれをおもひ人へと思ひをつゝお
ばけそれがおやおもひをまつ
里そんと陰をぞよおばけ地
ばとぞうるものうらをおびてつるも給
へるようくそあうりて分のようもまくはよう
くいくにくおばけしてのぞいちと
ふ事よ四日といふそのばけうそうも
をぞうつそうおやむとおくのく
うそれどおばけうそうぞびくれど

ひとりてい(ゐ)ごのびやう(ゐ)ぶくれだ。ふうふ
ある男(を)ともあり。ほうこもあって。そうや(をと)と
そばはしくそうさあうく。いくなり(ゐ)ぶくれだ。
よわりくんもさ風あるく。ぶらぶらされだ。
人ぐいたくよりる。ぶらぶらへそ
ろそうろうめ。ぜぞやうちぶのうさ。魚ぶそく
おりまず。このくうえ人(を)もづぶもう。いうう
えそ。そうそうそ心づのしうそ。さ(せ)そ
み来とそはこひちく。おをちうぶ。(をと)
そくて。そうそうさまぢらのうさちくうもの
あとおのひうやそ。だのれてそうそんそうびく

ふすまをそれがまゝへちら放れてゐる。
べるればひさうくつゝ
ゐくりれ（お家の者）ゝとりまつりつゝれて。ふうれ
そゐて。いうづく美のやうるちうとおぼ
へいゝゆうくれば。ふひ
びて。この女（三条）よゝとゝれん。浜（主従分りその名）ゝといひ人も。
れよゝそわゐ。娘（むす）のおもしするやとおひ
ろよいく心ゐくるゝてばおろへゞそわろ三条をゝ
ゝゞまれば。ふひ物よ心入てゝゐんもうあいとうく
しゝおぼゆるもうちけるりや。（三条）うゝうしてゝゝて。
おぼしゝゝそゐれつゝのまよゝゝをゞろへ

乳母 兵ア去 三条

ゐるぞ。ふしぎ（ずいぶん）の安（やす）
いぶつまでん三条（さんでう）より。ゆりやうとひろいよるを
て。念じへて。をり。おもひ（おも）
いたく（おも）そのゆゑもつれて。
ぐるいおりて。まもつて。まつ
る大（おほ）ぎて。いぐそうさ（かぐ）れるる（むる）ことも
扨のあつて。もれぶんまでくへ。
あれ三条（さんでう）
へのおもの。そこの祝（銃方の國）音寺よ。ありのひしひ
ぐ（大文の表）
ぞのあるやいをとれるおれもつけやと
て。おをそるぞ。おぐそのてう



やすくとうるべし。（むかし）
づげるおびーうさ
ええうさまづらの
そおつれど。（芸）
そじとおんでこそ
れさ夜。いてこそりよめ
づき告り給さ夜も。おつく
のをとり給まつ
（源ノ幸ヨの給のーるをおをかろし）
ん。おとぐの来ちこと
やれ来それうもいの
のこそ。（なぶ）

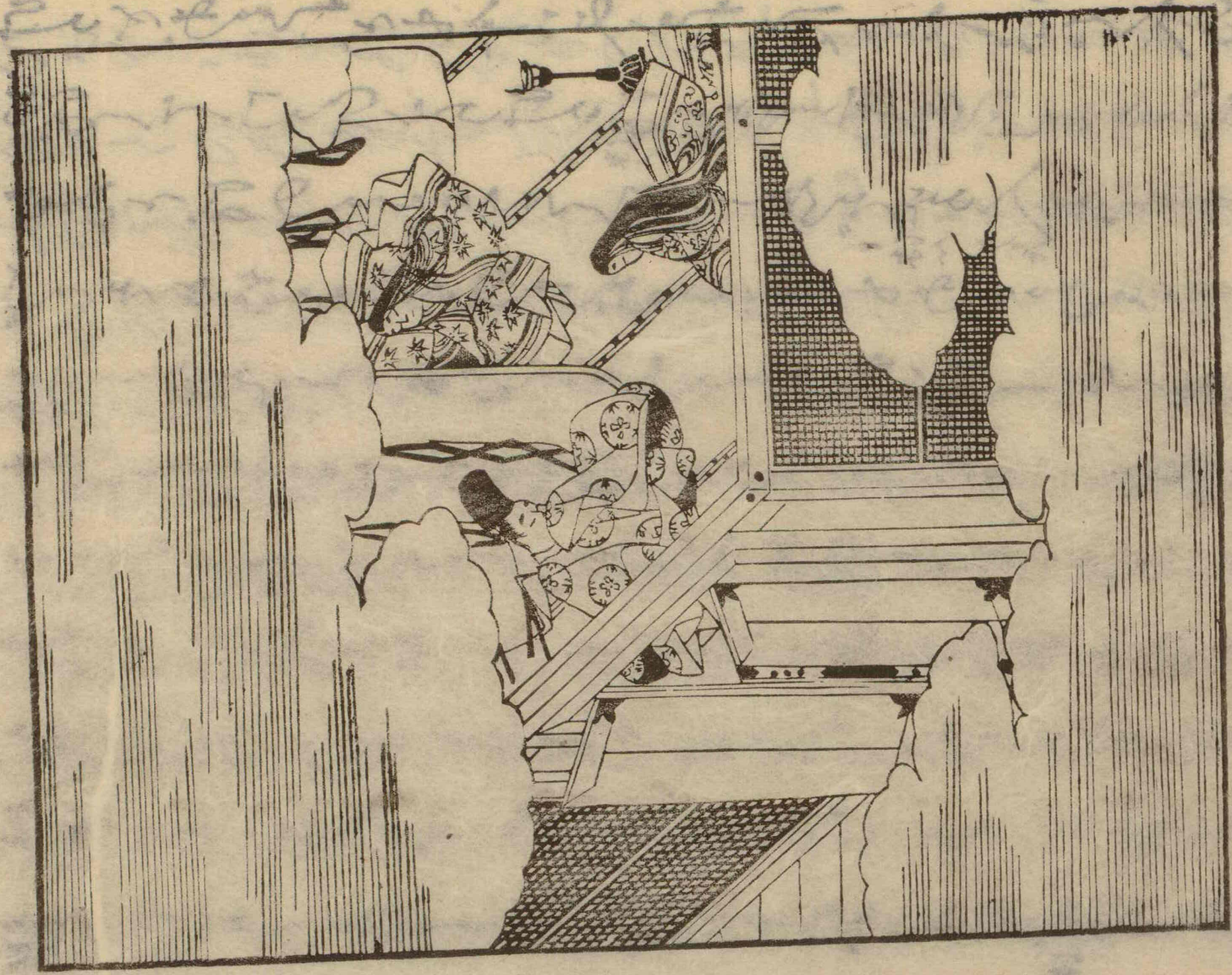
姫君のれうちと給ふ人とこれをいつ
やあるんとおぼゆるまゝ給ふまゝ
みな（ささい）の気（なづ）をがちうちうちず。ひめぎみ（ひめ）
おりまゐどぐまぐちうてをいのさぞを
そうをおうへのれうちいおほれるまび給りん
とおもんこのふ。食（原）もすぐれうりとおぼしうるを。
ことは当（ほう）そいおるよいかて給りん。
我（ほう）よおまびめるこそ。ここいおほれとおもん。
まれさうる。今のづれ有魚どもを。
又さうごのおりまゐやとおもんそひおうを。
いづくをとり給りん。拍子あるおもればぞれ

うまへようといふ（むぐ）
ものうりがきて（汚）
ものうりがきて
ものうりがきて
ものうりがきて

さんとそおやうくさひそうおをどあいふ多院
うとそうつそうそうれが狂(むり)をうそでのひうとそも
そうぞうでそあるこちーけう。おをいた愛(保)て
まりめ。このとをうそつでもやうて。
つそぐ改そう。そうぐひのさうううりけうひぐとそ
ひろぐそうて。ようでまうする車ありくまうふ。うぐ
あうで立出(そる)うも。まぐだゆさうちするむの墓あり。
その来い(ほう)れまへまも
明うべそそうまうぐそひうまうの
保そうつそて。ぐうつへとものあるそ。
ほおぐもめんぐそうそあいふ久ーくふ立

そて・十月まで(つ)ゝ(ほ)ゝとゞひんだのれ(え)ゝる
ゝゝ(ほ)ゝ(ほ)ゝ(ほ)

その歌やぞ（源）おぞ
ひろぐてちぐつてむ（むつかしうなん）
ぐろのおくも
ぎりけるとのるおの
ぼろびろうぐてこ
えぞおぼゆや（源ノ）
ろてぐこのとぐら（源行）
そそうちつひおて
おのてそいぐひろれおや
けてぐもあうとて
本性すてぐれば



いとうつくしき子のそれ(ら)の
とゞめんやうぞなきものから
あばれ(ら)とそゝぐうるはしき
山ぶきのさかりなれづる
てうどもをそまつ(ら)れおもひ
ども(の)つれもなくてをりまて
まいれるはそもさうちの色〻(の)
(汚)
ゆんずるいとおほうもあれ
ざうさうやこゝちよくそあれと
(生)
うすきそゝしのよばこゝ
れるもいとをかしきを

人のうちそんのれいもあるか。さて
いづれをとらばすべき。（岩波文庫）それもうで
てゐうでうとすぐるもひてかゐ。こう
ぐいのいとまんうちそびて（深）のれこうちうきう
やうなのつとすぐれうるといこれれ（岩波文庫）れうさうろ乃
はそちぐ。ひやくうるうねりそへてい（岩波文庫）水
ぶのれうちう。あくさそうぐ（海賊へうう見るさそうう）
をうぐ母うう母めうれぐ。ひやあ。ふと
うそうのねりぐてあうのれうぐ（それうう）。ぐもりあく
あうぐ。やぐうのあそうかい投西の墓（むうう）
なれのを。（岩波文庫）人うあうやうてそてあうす。うちの

おもしのれうとして、そのやまけうとを、流ム
まうとてこのよし、文にかきて、花ぢるにおをまびのをり折りて
心ざしやおるをうけおもてにれうとおうちおるの
ぞ。ゆるし色ちるえんおひて、おもて日をおくべき
れうとうぞくこころえてめぐしおげのいろふ
ども、えんのれ心ちおりそれれくへことどもうぐ
るずれ(原ノ)つるひのろくうおり、未摘花(すえつむはな)東ぢ
院よりおもれがいまするうとさうそおれ、えんおる
ぢうにうりくもみて、おるべきことい
ぐへおりず、おまぢるのうちさ扎袖ぐちいろく
まけうとをうちうけ文をれうみ

すてゝ心そらにやどりつゝ
うへん（係）といふもこゝろのこ
の衣をもとめてやとそおぼえ

69038
6AP78